

平成20年度
全関東学生ジムカーナ選手権大会
結果報告書



早稲田大学自動車部

グランプリレポート

今回行われた全関東学生ジムカーナ選手権大会の当日の様様をまとめましたので、結果報告とともに掲載させていただきます

我々早稲田大学自動車部はジムカーナ競技に諸事情により2年間参戦することができませんでした。そして復帰初年度となる今年は、3年前の全関東ジムカーナ優勝車両であるEG6 シビックに徹底的な軽量化を施し、セッティングを煮詰めました。

また、ジムカーナに参戦するにあたって、ジムカーナの技術面、車両面での知識不足が当初心配されておりました。その知識不足を解消するために当部卒のOBの先輩方にご指導を願いました。特に平成15年度卒の全日本ジムカーナ SA1 クラスに参戦している西野洋平 OB には、車両製作から運転技術まで教えていただき、大変お世話になりました。

他校の車両は、シビックEG6にB18Cエンジン換装やフルクロスミッションを搭載している大学も多く、元レース車両のシビック EK9で参戦している大学もあり、そういった車両を持つ大学を相手に我が部はポディウムの頂点を目指し、挑む形となりました。



曇り止め対策中

今回の大会会場は富士スピードウェイジムカーナ場。朝の天気は前夜から続くあいにくの雨です。大会当日は伝統の早慶エール交換に始まり、校歌斉唱と共に両校の健闘を誓います。参加校は20校。1校当たり3人が午前、午後それぞれ1本ずつ走行し、そのベストタイムの合計で順位が決定します。出走順は前年度の成績で決まるシステムをとっており、2年ぶりに参戦する当部は全大学中1番目の出走順となりました。



当日は水溜りができるほどのウェットでした

全大学中で1番最初に出走するのは我が部の第一走者、加藤です。昨夜から降り続く雨により、コース上はフルウェット。しかし、流石は4年生の経験で路面状況をよく読み58秒17としっかりタイムを残しました。第2走者の関根は緊張からかサイドターンセクションで大きく失速してしまい、1分2秒45のタイムを残しました。そして先日の全関東ダートトライアルで個人優勝した第三走者 中島の出走です。最初の高速コーナー、サイドターンと決めましたが最後の270°ターンでミスをしてしまいました。タイムは57秒49でした。結果、午前中を我が部は団体4位の成績で折り返しました。午前中1位の慶応大学とのタイム差は約6秒です。どの大学も午後にタイムアップすることを考えると、優勝するためには三人それぞれが大幅にタイムアップする必要があります。



パソコンで動画を分析してしっかり午前中を反省します

ジムカーナの経験が浅い我々は、効率よく練習するためにピットでパソコンを使い、走行動画を分析し練習してきました。昼休みには午後からの走行にむけて、パソコンで車載動画と外から撮影した動画を分析し運転を修正します。

午後も変わらず路面はウェット。加藤の2本目がスタートします。最後のターンセクションでシフトミスをしてしまいましたが、その後も落ち着いた対処で54秒62と会心のアタックをみせ4秒近くのタイムアップを果たしました。ここで暫定1位の慶応大学との差を大きく縮めることができました。

次に関根の2本目です。昼休みに中島と加藤からコースの攻略ポイントを教わり、タイムアップが期待されます。ターンセクションでやや荒さがでてしまったものの、56秒08と6秒ものタイムアップを果たしました。



雨の中応援部からの熱い応援

そして、第三走者の中島の出走となりました。ここまでで慶応大学とのタイム差はほぼ無くなったため、ここでのタイムに期待がかかります。緊張の中、中島はしっかりフロントにトラクションをかける走りをし、なんと**53秒00**のトップタイムをたたき出しました。

その後も慶応大学の最終走者は中島のタイムを上回ることができず、早稲田大学の団体、個人優勝が決定しました。

当初は苦戦が予想された一戦でしたが、逆境の中でなんとか結果を出そうと部員全員で努力したことでこのような最高の結果を残すことができました。今回は正にチームとしての勝利であり、その喜びを部員全員で分かち合うことができました。



全関東学生大会三冠達成しました！